



障害者や妊婦へ意思表示

「助けます」 マスクに♡

赤穂中央病院グループが提唱

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、困っている人を助ける意思をさりげなく示す活動を、赤穂中央病院（赤穂市惣門町）を運営する医療法人伯鳳会（はくほう）のグループが提唱している。「ヘルプマスク」と称し、青いハート印をマスクに付けたり、青色のペンで描いたり。誰もが自然に支え合える社会づくりに向け、「少しの勇気とおせっかいを」と呼び掛ける。（坂本 勝）

ハート印や青色ペンで描く

「少しの勇気を」

改正障害者差別解消法が5月に成立。障害がある人の移動や意思疎通を無理のない範囲で支援する「合理的配慮」の義務付けが、国や自治体から企業など民間事業者にも広がった。義足や人工関節の使用、内部疾患や妊娠初期などは援助が必要でも外見からは分かりにくい。必要性を本人が周囲に知らせるヘルプマークは以前から知られている。同グループが7月、

全国の男女千人にインターネット上で調べた結果、86%が「ヘルプマーク利用者が困っていたらサポートしたい」と回答。一方で、94%が「どのようサポートしたらよいか分からない」と答えた。

同グループは10病院や介護老人保健施設など60以上の事業所を運営する。医療や福祉に関わる立場から、ヘルプマークの有無にかかわらず手助けする意思を表すことが、遠慮なく互いに助け合える社会につながると考えた。

発案者の桜井勇介さん（32）と毛利ひかるさん（28）は共に大阪市の大阪陽子線クリニック勤務。コロナ禍が続く、医療従事者の頑張りだけでは限界がある。互いに距離が生まれ、制約がある今こそ、おせっかいをかけ合う社会に」と訴える。

リモート取材に応じる桜井勇介さん（右下）と毛利ひかるさん（左下）は赤穂中央病院

（C）神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

はくほう

①困っている人を助ける意思をさりげなく示す活動で医療法人伯鳳会のグループが提唱しているのは何マスクといいますか。

また、その活動で誰もが自然に支え合える社会づくりに向け、呼びかけている言葉を書きましょう。

②5月に成立した障害者に関する法律名を書きましょう。

また、その法律で義務付けられている障害がある人の移動や意思疎通を無理のない範囲で支援することを何といいますか。

③以前から知られているヘルプマークは何のために作成されましたか。

④今回のように困っている人を助ける意思をさりげなく示す活動でどのようなことができるか考えてみよう。